

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	三宅 恵里子	市確認欄	
専門部会名	第 1 回	就労部会	
日 時	令和 8 年 4 月 10 日（金） 14 時 30 分～16 時 00 分		
会 場	日進市障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 9 名	事務局 5 名	
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り・ <input type="checkbox"/> なし		
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 部会員自己紹介 2 年間スケジュールについて 3 障害者就労施設商品・作業カタログについて 4 令和 8 年度学校卒業後の進路を考えるための障害福祉サービス説明会について 5 一般就労について 6 本日のまとめ、次回の検討課題について 		
報告・検討の内容	<p>1 部会員自己紹介</p> <p>2 年間スケジュールについて (1)令和 8 年のスケジュール表を用いて、年間スケジュールを説明 第 1 回 今回（4 月開催） 第 2 回 6 / 5（金）障害福祉サービス説明会 第 3 回 8 月開催 福祉的就労説明会の振り返り、来年度の説明会について協議する。 一般就労、学齢期からの繋がりのある支援について議論する。 → 8 / 21 に ZOOM 会議を予定していたが、協議の結果対面することになった。 第 4 回 10 / 21（水）10 時～12 時 子ども部会との合同部会 第 5 回 2 / 12（金）一般就労について、来年度の説明会について 意思決定支援の重要性が確認され、子ども部会との連携も視野に入れて議論を継続する方針とする。</p> <p>3 障害者就労施設商品・作業カタログについて (1)チラシの設置場所について公共施設以外にないか、事業所の方に意見を伺う。 →本日、出席されている事業所ではワークキャンパス・ポレポレは事業所に置くことは可能なため、市内の事業所にも置いて頂けるかを確認する。 チラシの案が出来次第、発注をする。</p> <p>4 令和 8 年度学校卒業後の進路を考えるための障害福祉サービス説明会について (1)タイムスケジュールについて 前日準備：6 月 4 日 16:00～</p>		

当日集合：6月5日 9:15

役割確認 → 9:45 受付開始 → 10:00 開会

<プログラム>

- ① 部会長挨拶
- ② 福祉サービスの種類と受給者証発行の流れについて (20分)
- ③ 三好特別支援学校の進路指導について (30分)
- ④ 就労選択支援について (30分)
- ⑤ 就労移行支援について (20分)

「事業所ブース」は今年は設けず、講演中心の構成に変更する。

事業所パンフレットの設置スペースは確保する。

(2) アンケートについて

QRコードでアンケート回答できる形式にする。

「個別相談希望」の有無を確認する項目を追加予定とする。

配布先は特別支援学校、公共施設、事業所などとする。

昨年のアンケートは講演全体をまとめて評価する形式だったが、今年は4つの講演それぞれを個別に評価できる形式にした方が評価が分かりやすいという意見が出た。

→「分かりやすかった／分かりにくかった」「理由・コメント」などを項目ごとに設ける方向で検討する。

(3) タイムテーブルについて

役割の確認

前日準備に参加できる方：大嶋さん、関屋さん、岡田先生、村野さん、菅原さん

備品について、カメラはセンターのものを使用する。

5 一般就労について

(1) 各部会員の所属先での取り組み・疑問・必要と感じられる課題（個人・地域など）について意見を伺った。

① パッソ日進校（就労移行支援事業所）

企業の受け入れ枠は拡大傾向にあり、利用者が「働く場所を選べる」状況になりつつある。一方で、体調管理・生活リズム・自己理解が不十分なまま就労するケースが増加している。特に精神障害・中途障害の利用者は「障害受容」が進まないまま就労し、早期離職につながるケースが増えた。「合わない仕事に飛びつく」ケースも増加している。

② 日進ワークキャンパス（就労移行・就労継続支援B型事業所）

準備なしに一般就労は難しい利用者が多く、段階的なステップが必要である。就労継続B型は「居場所」としての役割もあり、親の期待と本人の実力のギャップが課題となる。企業見学などで「働くイメージ」を持たせる機会が必要と感じる。

③ 三好特別支援学校

福祉と企業の最大の違いは障害理解の有無である。福祉は周囲の障害理解があるが、企業は理解がない人も多い。一般就労にはコミュニケーション能力や相談する力が必須である。「仕事はできるが相談できずに失敗する」ケースが多い。最近の子どもは能力は高いが幼い傾向が強く、家庭でのしつけや自立支援が重要と感じる。小さい頃からの生活習慣・ルール形成が、高校以降の成長に大きく影響する。学校・相談員等から、現実を分かりやすく伝えることが必要である。

④ 名古屋学芸大学

大学でも障害のある学生の支援が増加しており、合理的配慮が求められるため企業との連携が必要である。技術は高くてもコミュニケーション能力が未熟な学生が多い。障害者雇用枠に入ることへの抵抗がある学生もいる。

⑤ ハローワーク名古屋東

障害者雇用率は上昇し続けており、企業の採用意欲は高い。障害者登録（手帳・診断書）が必要だが、グレーゾーンの方は登録が難しく、支援につながりにくい。採用後のトラブル対応も増えており、支援機関との連携が重要となる。企業との面談の中で求められる人材は、基本的なことが出来、体力がある人であると考えている。

⑥ LITALICO ワークス藤ヶ丘（就労移行支援事業所）

利用者の困りごとが多様化している。就労だけでなく、住まい・家族関係・お金の問題を抱える人が増加している。関係機関との連携がますます重要となる。他に、企業側の柔軟性の低下の課題がある。障害者雇用が増えたことで、企業のルールが厳格化し、環境調整（合理的配慮）をどう作るかが支援側の課題と感じる。また、就労移行支援を利用しないまま就労する人が増加している。経済的理由で支援を受けずに就労し、ミスマッチとなり早期離職という流れが増えている。

⑦ ポレポレハウス（就労継続支援B型事業所）

子ども支援（放課後等デイサービス）の視点から、小中高での「土台づくり」が最重要である。自分でできることを支援者が奪わないことや、保護者にも障害理解を深めてもらい、将来、企業に求められることを意識する必要がある。

⑧ いくるば（就労準備支援事業所）

地域、企業とのつながりが重要である。見学、体験の機会を増やし、地域全体で障害理解を深めることが大切である。「働く＝稼ぐ」だけでなく、役割・つながり・居場所を持つことが人生の豊かさにつながる。引きこもりや不登校も「社会適応の困難」として捉え、地域で支える仕組みが必要と感じる。

⑨ コープあいち（障害者就労支援者）

特別支援学校、就労移行、障害者相談支援センターと連携し、コロナ後、実習や採用を再開した。一般就労では、自立した生活・毎日の出勤・コミュニケーション・報連相が必須となる。

⑩ 障害者相談支援センター

市内は交通アクセスが弱く、働ける可能性があっても通勤が難しい人がいる。また、合理的配慮を求めるが、本人が職場の要求に応えられず離職するケースがある。事業所以外の場所で働く施設外就労が増え、一般企業との接点は増えている。

(2)その他

学齢期からの繋がりのある支援の議論に向けて、今後、障害福祉サービス説明会の運営に子ども部会に参加してもらおう等、何が一緒にできるかを考えていくために意見を伺った。

→ポレポレの同法人内で、中学生の段階から事業所体験を行い、記録を次の支援機関へ引き継いだ。学校・企業・支援機関が連携し、問題対応にあたった。

→特別支援学校は、卒業後も必要に応じて支援機関と連携して動いている。企業でのトラブルに対し、学校と支援機関が協力して対応した。教員向け研修も実施し、小学校教員にも就労支援の知識を広げる取り組みを行っている。

→今後も検討を続ける。

	<p>6 本日のまとめ、次回の検討課題について</p> <p>(1)障害者就労施設商品・作業カタログについて、チラシ作成を進める。</p> <p>(2)障害福祉サービス説明会の準備を進める。</p> <p>(3)一般就労について</p> <p>スキルよりも生活習慣、体力、家庭環境が重要である。資格やスキルに目が向きがちだが、「毎日働き続ける力」こそ就労継続の鍵となる。本人・家庭・学校・支援機関・企業が連携し、基礎的な力（コミュニケーション能力・相談する力・報連相）をどう育てるかを考える必要がある。</p> <p>交通の不便さや、受け入れ企業が少ない課題がある。地域での社会参加をどのように提供していくか議論が必要である。</p> <p>→以上の課題について、部会で検討していく。</p>
提出書類	別添のとおり
次回開催日時	令和8年6月5日（金）
次回会場	にしんマスプロ市民会館 小ホール

令和8年度 就労部会員名簿

番号	選任内容	氏名	所属等	備考
1	就業・生活支援センター	中屋 優	社会福祉法人ひまわり福祉会 尾張東部障がい者就業・生活支援センター アクト	欠
2	就労継続支援A型事業所	小山 喜久	株式会社 エール	欠
3	就労移行・就労継続支援 B型事業所	天野祥太郎	社会福祉法人名古屋ライトハウス 日進ワークキャンパス	
4	就労継続支援B型事業所	大嶋 翔太	社会福祉法人ポレポレ 多機能型事業所 ポレポレハウス	
5	就労移行支援事業所	関屋 悠	株式会社LITALICO 就労移行支援事業所 LITALICOワークス藤が丘	
6	就労移行支援事業所	中河 智幸	Man To Man Passo 株式会社 就労移行支援事業所 パッソ日進校	
7	ハローワーク	吉川 正洋	ハローワーク名古屋東	
8	日進市商工会	鈴木 英雄	商工会	欠
9	愛知県立三好特別支援学校	岡田 倫和	愛知県立三好特別支援学校	
10	就労準備支援事業所	村野 政章	就労準備支援事業所 いくるば	
11	障害者就労支援者	菅原 淳	生活協同組合 コープあいち	
12	学校関係者	草野 圭一	名古屋学芸大学	
13	部会経験者	竹内 由美子	NPO法人じゃんぐるじむ	欠
14	事務局	片岡 麻里	日進市福祉部地域福祉課	
15	事務局	八木 柚月	日進市福祉部地域福祉課	
16	事務局	宇佐美 香津美	日進市地域生活支援センター	
17	事務局	中村 美智子	日進市子ども発達支援センター	
18	事務局	三宅 恵里子	日進市子ども発達支援センター	